

あわやの大惨事



業務が始まる少し前、7時50分頃だと記憶しています。

妻が自宅から悲鳴にも似た叫び声を上げ、慌ただしく事務所の階段を駆け上がってきます。

「〇〇が今車に跳ねられたって…私の携帯に…電話が…ううっ」(〇〇は長女の名)

何を言っているのかも良く分からない程取り乱している妻の話聞き、慌てて車に飛び乗り神様にも祈る気持ちで事故現場へ車を走らせますが、ヤキモキしながら待たされる赤信号の長いこと長いこと…。

遠くに見える事故現場には救急車、なみふり構わず近くに車を乗り捨て救急車に駆け寄り恐る恐る中を覗き込むと、そこには腕から血を流している長女が不安そうに座っています。

救急隊員の話聞くと、緊急を要する怪我ではないとの事なので少し安心しましたが、ゆっくり話す間もなく大事をとって検査の為に病院へ搬送されて行きました。

普段と変わらない朝、ついさっき元気に家を出て行った娘が今は救急車の中。

何事もない穏やかな毎日が、電話一本で悪夢に変わってしまうというこの恐ろしさを目の当たりにし、こんな辛い思いをするのは御免ですし、誰にも経験して欲しくありません。

だからこそ今回の事故は「大した怪我じゃなくて良かったね」で終わらせるのではなく、今ガーデンニュースを読んでいるあなたのお子さんやお孫さんの身に万が一の事が絶対に起こらない様、今一度子供達と話をし、通学路の安全性なども確認して戴くきっかけにして欲しいのです。

今事務所でこの原稿を書いている最中でも、外で子供達の遊び声が聞こえてきます。

学校の成績も大事、将来地位や名声を得ることも大事かもしれません。

腕の傷も回復し今は元気にお手伝い!

愛するからこそ親は子供に色んな事を期待してしまいます。

しかし一番大事な物を本当に失うかもしれないと言う切羽詰まった体験を通して、改めて何事も無く健康で元気に生活していただけるだけで、これ以上ありがたい事は無いと思えるようになりました。

事故でくの字に曲がった自転車は、一刻も早く処分し記憶から消し去りたいとも考えましたが、この自転車は、今後自らが加害者とならない為の戒めとしてだけではなく、私の周りの全ての人事故に巻き込まれない様今回の事故を教訓とする為、これからも倉庫にしまっておく事にします。

これから毎日暑くなります、注意力もゆるみがちになりますが、運転の際には気持ちを引き締めて交通事故を起こさない様お互い気をつけていきたいものです。



腕利き職人との出会いが物づくりを変える

前回のガーデンニュースで、地域の建築に関わる腕利き職人の紹介をさせていただいたところ、大変多くのご反響をいただきました。

住宅の塗装から壁紙の張り替え、水廻りの改修など住宅に関わる大きな工事から、ちょっとした補修工事に至るまで現在多くのお問い合わせを戴いております。

私達にとって商売的に美味しい話では決してありませんが、地元の職人が元気になり、また依頼するお客様が安心して任せられる職人と出合う事で「依頼する側、される側」双方にメリットの多いお話が成立すれば幸いです。これからも順次施工に入っていきます、お客様から頂戴した生の声を今後は紙面でも掲載させて頂き戴きますので、皆様の参考にして戴ければと思います。



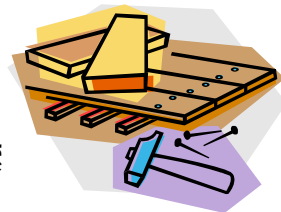
リ・ガーデンというお庭造りの考え方



価値観や生活様式の変化が著しいここ20年、住宅リフォームという言葉が完全に定着する程、リフォーム事業は一大産業として成長し進化を遂げてきました。

その一方でお庭や外構の改修は、住宅リフォームに比べて何やら難しい事の様に受け止められ、生活の中で不便や危険を感じながらも「よく分からないから今のままでいいや！」と二の足を踏むお客様も多かった様に思えます。

しかし最近になってテレビ番組などでもリフォームに関する番組が増え、また高齢化社会の入り口に差し掛かっている時代背景もあるのでしょうか、お庭や外構にもリフォームを取り入れ、住みやすく手間のかからない住空間を模索する動きが活発化しています。



そこで私達は、既存のお庭や外構に手を加え、日々の生活を安心して快適に過ごしていただけるご提案をリフォームとは区別しリ・ガーデン (Re: garden) と称し、これからの時代ニーズを敏感に取り入れたお庭づくりの設計施工を提案して参ります。

幸いにも弊社スタッフである吉村は介護福祉士の資格を持ち、前職は介護施設で勤務経験を積んだ「福祉のエキスパート」である事から、高齢者の目線に立った対策を講じる事が出来ますし、創業60年、これまで地域の児童公園や小・中学校の校庭の施工を通じて培ってきた安全なお庭造りの技術/ノウハウは、そこに住まう人にとって意味のある提案として広く生かす事が出来ます。

今後、若い世代の子供達が安心して遊び暮らせる「子育て リ・ガーデン」、そしてお年寄りが安心快適に老後を送ることのできる「福祉 リ・ガーデン」を今後積極的に展開する事で、もっと美しく、もっと快適に、もっと利用できるお庭造りを皆様にご提供出来たら幸いです。



小牧の夏の風物詩

小牧市に在住の方に、小牧の夏のお祭りと言えば？と聞けば「小牧平成夏まつり」と答える方は少なくありません。

しかし例年この時期は、東隣の春日井に花火で有名な市民納涼まつりがあり、西隣には全国に名高い一宮七夕祭りがあるなど、大きな祭りと日程が重なる事が多く、残念ながら市外の皆様にとって馴染みの薄いお祭りだったと言えます。小牧のマスコットこまっきー



まつりの魅力は全部伝えきれませんが、すごく盛り上がるお祭りだよ

とはいえ、昨年の第23回も8万3000人の来場がある程、近隣市民の皆さんの認知度の割に多くの来場者にお越しいただいている知る人ぞ知る小牧でも1・2を争う大きなお祭りなのです。

まさに小牧の夏の風物詩とも言えるこのお祭りが今年第24回を迎え、何と！今回は私仲根が実行委員長として祭りの企画運営の責任者を務めています。もちろん数万人規模のまつりの長を務める事は当然初めての事ですし、おそらく生涯最初で最後の貴重な経験となると思います。

まつり当日は数万人の来場者の前でご挨拶をさせていただく事にもなっており、今からフレッシュと不安で頭が一杯ですが、ぜひ平成夏まつりの開催日7月28日(土)29日(日)には小牧の地へお越しいただき、日々の疲れやストレスをぶっ飛ばしていただけたらと思います。特に29日の夜は手筒花火の競演や勇壮なフィナーレが開催されるのでオススメです、詳しくはWEBで！

あなたに贈るねぎらいの言葉

「誰にも頼らない強さ」なんかよりも、「時には人に甘えられる強さ」のほうを大切にしてほしい。(斎藤環)

小牧で創業60年、技術継承300年
庭造り支援センター (株)仲根石工造園
さあいいにわつくろ
tel 0120-31-2829 fax 0568-79-8215
e-mail info@niwasien.com
HP 庭造り支援センター検索 公式 Facebook 公開中

